

風の事典

真木太一・新野 宏・野村卓史・林 陽生・山川修治 編著,
丸善出版, 2011年11月, 267 pp. 定価8,500円(税別)

“風”という言葉を聞いて、それぞれの学術研究分野に携わる人が連想するものは、異なるであろう。また農業経営、スポーツなど、直接的には学術研究に関わらない人が連想するものももちろん異なる。本書は、さまざまな視点から風に関するトピックについて紹介がなされている書籍である。

“Climate change”に代表されるような地球環境問題に対する関心は年々高まってきており、このような問題に取り組むためには、全球レベルからマクロなスケールの視野を持って分野横断的に課題に取り組まなければならない。様々な場面でその特性を理解する必要がある“風”は、代表的に扱われる気象学の分野のみならず、様々な分野において理解が必要不可欠である。本書はそのような理解を助けてくれる1つであり、農業気象関連の研究者を含む99名が、約200項目を執筆している。

本書は以下の13章から構成されている。

第1章 風と生活：日々の暮らしにおける風とのかかわりについて、文化面からも記述がされている。

第2章 風の基礎：風の発生機構や観測についての解説がされている。

第3章 さまざまな風：グローバルスケールから数キロスケールで観測されるさまざまな特徴を持つ風についての解説がされている。

第4章 風と地形・景観：風が織りなす様々な自然の造形について解説がされている。

第5章 風と水の関わり：風によって運ばれる雪や雨を伴った現象について主に解説されている。

第6章 風と地球環境問題：良く知られている主要な環境問題について取り上げられている。

第7章 風とエネルギー：風そのものが持つエネルギーから、原発事故以来最近注目を浴びつつあるクリーンエネルギーの1つである風力発電についても記述がされている。

第8章 風と災害：風による災害として代表的な台風ほか、風によってもたらされるさまざまな災害について紹介がされている。

第9章 風と農業：農業を営む上で理解が必要不可欠な農業と風とのかかわりについて記述がされている。

第10章 風と都市：人工物によって作り出される特異な風現象についての解説がされている。

第11章 風と乗り物：車両や飛行機等の乗り物が移動する際に形成される空気の流れや、風の抵抗について主に記述がされている。

第12章 風とスポーツ：風そのものを利用したスポーツのみならず、そのほかの球技などについても風から受ける影響を解説している。

第13章 風と動植物：風による物質移動に加え、風を利用した動植物の戦略についても記載されている。

第1章では風と名のつく風俗習慣歴史や直接かかわりを持たない医学に関する記述も含まれており、自然科学の枠を超えた読み物として楽しめる。第2章以降は風に関する様々な分野を網羅しており、巻末には索引も記されているのでタイトル通り事典として活用できる。さらに各項目は、1ページあるいは2ページで完結しているためにその項目ごとに読み切ることができ、図や写真を交えながら解説されているので、単純に読み物としても読みやすい構成となっている。さらに具体例を挙げながら説明をされているので、現象についての理解が深まりやすい。

風にかかわる学術分野に携わる研究者の参考書としてだけでなく、広く一般の人にも風に関連する諸現象についての理解を深め、より身近に感じることのできる書籍と言える。

(農研機構 北海道農業研究センター,
日本学術振興会 大久保晋治郎)